

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部		
	課名	防災安全課		
	係名	交通防犯係		
	記入者		電話(内線)	281

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	防犯サポーター設置事業				(3) 事業の 優先度	B	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)		
② 施策コード	24203	(総合計画掲載ページ 83 ページ)					会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)				財源区分		市単独			
基本施策	2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)				予算科目		款 2	項 7	目 1	
施策	②防犯対策の充実				予算書上の		防犯サポーター設置事業費			
施策内容	3防犯サポーターの設置				事業名称		(予算書 64 ページに掲載)			
(5) 事業期間	開始		16	年	5	月から	(8) 事務分類		自治事務	
	終了			年		月まで (	根拠法令			
						力年)				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
市内児童生徒及び結城駅周辺住民並びに結城駅周辺利用者	結城駅周辺及び通学路等の安全確保
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
結城市シルバー人材センターに委託し、パトロール等を実施している(委託防犯サポーター5名) ・通学路防犯パトロール ・夜間防犯パトロール ・放置自転車防止の啓発活動	駅周辺地域における防犯のため、交番の設置を警察に要望したが、実現しなかったため、駅周辺の防犯のため設置した。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
● 予算内訳		実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)			
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費						
	需用費	31	63				
	役務費	31	32				
	委託料	5,227	5,214				
	合計	5,289	5,309				
財源	国庫支出金 (千円)						
	県支出金 (千円)						
	地方債 (千円)						
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	5,289	5,309				
	合計 (千円)	5,289	5,309				
	補助・起債制度名						

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	通学路防犯パトロール日数	目標値	日		190	190	190	190	
		実績(見込)値		190	190				
	夜間防犯パトロール日数	目標値	日		359	359	359	359	
		実績(見込)値		360	359				
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	防犯センター来訪者	目標値	人		120	120	120	120	
		実績(見込)値		116	120	120	120	120	
		達成率		96.7 %	100.0 %				
	警察への通報件数	目標値	件		0	0	0	0	
		実績(見込)値		0	0	0	0	0	
		達成率		%	%				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	防犯と防犯意識の高揚のため必要である。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政または警察が主導すべき事業である。					
	手段の妥当性	A	妥当である						
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない						
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	巡回コースに地域間の差があるのでどちらともいえない。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	犯罪抑止効果は高い					
進捗度	事業の進捗	A	順調である						
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
警察とは違うので、サポーターの仕事にも限界がある。警察との更なる連携が必要である。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
警察との連携を強化し、自主防犯組織の育成を図り、市全体の防犯意識を高めていく。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			駅周辺の治安維持と児童生徒への犯罪防止には、必要な事業であるため、警察との連携及び自主防災組織の育成を強化し、安全安心なまちづくりを進める。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				